

2月の園だより

令和6年2月1日
目黒区立田道保育園長

今年も「新年おめでとう会」を行いました。全クラスがホールに集まり、おせち料理にまつわるクイズから始まり、職員は「十二支の始まり」の劇を行いました。職員が動物になりきって登場してくると「あ、〇〇先生だ」と子どもたちは大喜びです。小さい友達も先生がでてくるのが嬉しいようで「おっおっ」と声をだして真剣に見ています。全クラスが一斉に集まり行事ができることを嬉しく思い、子どもたちの歓声を聞くと沢山元気をもらいました。私たちも子どもたちの成長を沢山見守っていきたくないと改めて感じました。

先日、「田道ランド」(お店屋さんごっこ)を幼児クラスが行いました。3歳児クラスは「たからひき」4歳児クラスは「射的」5歳児クラスは「プラネタリウム」のお店を開店しました。各クラスのお店を回ると3歳クラスの友達が先生の後ろに隠れています。「どうしたの」と声をかけると人前で「いらっしゃいませ」というのが恥ずかしいそうです。先生が「景品を渡すのを、やってみたら」と声をかけると頷きます。初めは先生の後ろから渡していたのですが、みんなに「ありがとう」と声をかけられることが嬉しいようで、前にでて「これ、どうぞ」と景品を渡す姿が見られました。3歳児クラスは初めての経験でドキドキする場面も見られますが、行事を通して成長する姿に嬉しく思います。来年の活躍が楽しみです。

今月の予定



すもう月間
節分
ちゃんこ作り
千秋楽
中旬 身体計測・避難訓練

懇談会の予定

2歳児クラス懇談会
0歳児クラス懇談会
4歳児クラス懇談会
1歳児クラス懇談会
参加の程、よろしくお願いいたします。



『願いを込めて』

調理・栄養士



クラスで栽培したトマト、ピーマン、ナス、ブロッコリーなどを、子どもたちが調理室まで保育士と一緒に持ってきてくれます。「給食に出る」「おやつかな」「何味になるの」と自分達が栽培した野菜が何になるのか興味津々です。こんな日は給食もよく食べてくれます。また、2階の調乳室でも活動から帰ってきた子どもたちの「今日の給食はなんですか」の声が響きます。そんな声が私たちの励みになっています。

子どもたちが元気に1日を過ごし、また家庭での会話の中に「今日の給食美味しかった」と言ってもらえるよう願いを込め、安心、安全な美味しい給食作りを心がけています。

給食室初公開。中はとても広く
ボウルがとても大きいのが分
かります。



～食べるの大好き～

保育園で子どもたちが毎日楽しみにしていることの1つは食事です。今月は乳児クラスの食に関するエピソードを紹介します。



『ブロッコリーが大きくなったよ』 0歳児クラス（めだか組）



めだか組では、ブロッコリーを育てています。最初のうちは葉だけで何か分からなかった子どもたちですが、真ん中に小さなブロッコリーができたことを知らせると「あー」と言いながら触っていました。それからというもの、園庭に行く前にブロッコリーを見ることが日課になり、側に行き触ったり、時には食べる真似をしていることもあります。収穫ができるほどの大きさになり、子どもたちの前で保育士がブロッコリーを切ってみました。収穫したブロッコリーを持って重さに驚いたり、触って嬉しそうにしていました。給食に出ると真っ先に食べる子どももいて、いつも以上によく食べる姿がありました。これからいろいろな食材に触れながら食べる楽しさにつなげていきたいです。



『かんせー！』

1歳児クラス（あひる組）

先日はかぼちゃの種取りをしました。半分に切られていても大きなかぼちゃに「大きい」「冷たい」と言って目を丸くしながら触っています。「これが種だよ」と伝えると又ルッとした感触に手を引っ込め、硬い皮を触っている姿もありました。保育士が種を取ると真似をして取り始め、種が取れると「取れた！！」と種を保育士に見せる姿は誇らしげでもありました。保育士と一緒にかぼちゃの種を全部取ると「かんせー！」と言って手を大きく挙げて喜んでいました。全部取ったよという喜びが伝わってきました。その日の給食にかぼちゃが出てくると「あまーい」「種取ったね」と言いながらよく食べています。感触や嗅覚、味覚など様々な感覚を通して食べ物に興味を持てるように身近な食材を育てたり触れたりしていきたいと思えます。



『いつもよりおいしいな』

2歳児クラス（らっこ組）

「大きくなってきたね」「早く食べたいな」と言いながら、毎日子どもたちと水やりをしていた小松菜の収穫をしました。「うんとこしょ、どっこいしょ」と声をかけ1人1束ずつ小松菜を抜くと根っこが付いて「見て。白いおひげみたい」と保育士に見せてくれます。小松菜のおひたしにして給食で出てくると「これ〇〇ちゃんが取った小松菜だよ」と自分が取ったことを嬉しそうに知らせながら食べ始めました。

「シャキシャキしている」「ちょっと苦いけどおいしい」と言い、すぐに「もっと食べたい」とリクエストするほどでした。友達の言葉を聞いて緑の野菜が苦手だけど食べてみようとする子もいたり、いつも以上に小松菜を食べていた子どもたちです。毎日水やりをして大切に育ててきた野菜だからこそよりおいしく感じているようでした。これからも野菜の生長を子どもたちと楽しみながら食べる意欲につなげていきたいと思えます。